

ここから広げよう!! 各学部の先生からのオススメ本 READING LIST

人文学部 岩崎 克則 先生



岡本全勝 著
『明るい公務員講座』

時事通信出版局, 2017年3月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 317.3/O42

「公務員のハウツー本じゃないの?教育になじまない」と眉を顰める方もおられるかもしれないが、「説明資料は1枚にまとめる」とか「結論は先に書く」、「項目は3つまで」、「読んでもらえる文章にする」といったことは、指導教官に研究結果を説明するときなどに必要な考え方であるし、「服装で自分をよく売ろう」、「所作が人格をつくる」などは学生時代に限らず、世の中をわたっていく上で必要なことだと思う。毎日の習慣を見つめ、考え直す際におすすめの一冊である。

教育学部 松本 昭彦 先生



山本淳子 著
『枕草子のたくらみ:「春はあけぼの」に秘められた思い』 (朝日選書:957)

朝日新聞出版, 2017年4月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 914.3/Y31

実家・中関白家の没落や藤原道長の圧迫により、中宮定子の後半生は一条天皇の愛だけを支えに生きる時間であった。定子自身に読んでもらうために、またその薨去後は定子サロンの「戦略的明るさ」を歴史の中に永遠に記しとどめるために、半ば虚像としての「女房・清少納言」を通してその文化的輝きを描いた作品が『枕草子』であるとする。各章段についての新見にも満ち、読んで楽しい1冊である。

医学部 成田 正明 先生



リベラル社 編
『心が燃える三国志の言葉』

リベラル社, 星雲社 (発売) 2019年8月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 222.043/Ko44

「苦肉の策」「破竹の勢い」「登龍門」。私たちが普段何気なく使っている言葉は、かつて(日本ではほぼ卑弥呼の時代)中国の魏蜀呉の英雄たちの言葉だ。本書には、自分を高めるとき、組織の中で生きるときなど、その時代を生き抜くのに必死な言葉が並べてある。当時もそうだったのか。いまの自分にもあてはまる。新解釈も可能。参考にしない手はない。

工学部 前田 太佳夫 先生



山本太郎 著
『感染症と文明:共生への道』

(岩波新書;新赤版 1314)
岩波書店, 2011年6月
【所在】 図・開架・PB/図・1階教養ワークショップ/
医・医学科図書室(看護)
【請求記号】 493.8/Y31

感染症の視点から世界史を解説している。文明の衰退に感染症が大きく関与していること、欧州の植民地進出が現地の感染症により阻まれたこと、反対に免疫をもった欧州人の感染症が先住民の生活を破壊したことなど、興味深い。強毒ウイルスは人を倒してしまうため持続的に存在できず、結果的には弱毒ウイルスが人と共生することになるなど、感染症に詳しくなくても納得できる内容が多い。

生物資源学部 坂井 勝 先生



内山崇 著
『宇宙飛行士選抜試験:ファイナリストの消えない記憶』 (SB新書:529)

SBクリエイティブ, 2020年12月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 538.9/U25

「宇宙兄弟」の読者ならご存知の「宇宙飛行士選抜試験」に、人生をかけて挑戦したファイナリストの物語。大きな目標を追いながらも、あと一歩で夢破れた時の心情、その後の思いが赤裸々に記してある。本気で挑戦するための覚悟の大切さ、そこから生まれる人間関係の尊さ。今後の人生で、夢を追いかけ、大きな壁にぶつかるであろう大学生に、是非読んで欲しい一冊である。

教養教育院 大熊 富季子 先生



前野ウルド浩太郎 著
『バツを倒しにアフリカへ』

(光文社新書:883)
光文社, 2017年5月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 486.3/Ma27

「虫に愛される昆虫学者になりたい」という幼少期からの思いを胸に、サバクトビバッタの生態研究のために西アフリカに渡った若き「バッタ博士」の奮闘記。言葉や文化の違い、自然の厳しさ等の難局を次々と楽天的に乗り越える姿に元気がもらえ、フィールドワークの魅力も味わえる。熱意があればこんなにも世界は近くなるのだ、コロナが収束したらどこかに行きたい、と思わせてくれる一冊。